

知的障害のある児童生徒への「特別の教科 道徳」の実践

—高知県立山田特別支援学校で作成した道徳の「内容項目表」を活用した系統性のある取組—

○土居一平¹⁾ 古味聡子²⁾ 渡邊莉都³⁾ 三好喜久⁴⁾ 是永かな子⁵⁾

(高知県立山田特別支援学校)¹⁾²⁾³⁾⁴⁾ (高知大学大学院総合自然科学研究科教職実践高度化専攻)¹⁾⁵⁾

KEY WORDS: 知的障害特別支援学校 特別の教科 道徳 内容項目表

【目的】

知的障害特別支援学校である本校(以下、本校)は、令和2年度より、小学部・中学部・高等部に「特別の教科 道徳」の時間を設定している。その中で、知的障害のある児童生徒に対し、系統立った道徳の内容を構築することを目的として研究を行った。

【方法】

(1)道徳教育推進教師を中心に、道徳教育に関する委員会を設置した(以下、委員会)。

(2)本校の教員を対象に、道徳に関する教員の意識調査等の質問紙調査を実施した。

(3)質問紙調査の結果と学習指導要領をもとに、検討を重ね、本校独自の道徳の「内容項目表」を作成した。

【結果】

(1)道徳教育推進教師を中心に、主幹教諭、各学部1名、教職大学院派遣教員で委員会を構成した。月1回の会を設定し取組を進めた。道徳だよりを発行し、校内の道徳の考え方の啓発、関連書籍や教材の情報発信、実践蓄積のための授業指導略案作成の協力の呼びかけを行った。

(2)20XX年6月(1回目)、12月(2回目)に本校の小・中・高、各学部所属計92名に対して道徳に関する調査を実施した。

1回目調査では、道徳が新たに教科として教育課程上に位置付き、実践が始まったため、授業を行うにあたり、悩みがあると答えた教員が79%(73人)に上った。その内容は、「授業の展開方法について」が全体の33%を占めていた。

2回目調査では、1回目調査内容に加え、道徳の授業を実践した上での気づきや教材の活用方法、実践上の悩みを調査した。道徳授業で効果的と思われる授業スタイルとして、動画などの使用、体験的な学習、ロールプレイなどが上位項目として上がった。子どもの障害を考慮して、抽象的な表現や内面的な情動を具体的な支援を用いて明確化し、体験的実践的に学ぶことが有効と考えられていた。また、知的障害教育における道徳教育として、大切と考えることについては、内面的な育ち(30%)と並び、日常にすぐに生かせるスキル(27%)、一般化する力(21%)の割合が高かった。また、2回の質問紙調査に共通して、道徳の内容項目について、知的障害のある児童生徒に対し、特に取り上げる必要のある項目について、各学部の教員に調査した(中学校学習指導要領特別の教科 道徳、内容項目参照、22項目中3つ選択)。その結果、1回目と2回目の上位項目に大きな差異はなかったため、調査結果を本校独自の道徳「内容項目表」の選定に使用した。

(3)調査結果を踏まえ、本校独自の内容項目を小学部15項目、中学部17項目、高等部15項目に絞り込んだ(表1)。特別支援学校において取り扱う内容は、小学校(または中学校)学習指導要領第3章特別の教科道徳の第2に示す内容に準ずることになっている。また、配慮事項として指導内容の重点化を図ることとされている。

内容項目表の構成として、特別支援学校学習指導要領による7段階(小学部3段階、中学部2段階、高等部3段階)を念頭に、12年間の連続性のある指導や実態に応じた指導の充実を考慮することとした。道徳の「内容項目表」の作成にあたり、①育成を目指す資質能力が段階的・発展的になっていること、②具体的に評価しやすい形で資質能力を表していること、③ソーシャルメディアの普及と関連し「情報モラル」の内容を追加すること、④道徳授業担当教員に各学部の児童生徒の実態に沿っているか意見を求めること、の4点を確認した(表2)。

本校独自の道徳の「内容項目表」を作成できたことで、内容や目標をより具体的にイメージし、段階的な系統立った授業を計画できる補助となること、教員のこれからの実践の参考となる資料として活かされること、そして、本校の道徳教育の充実につながることを期待している。

表2 本校独自の内容項目表の一部

小学部(道徳)	小学部(道徳)	小学部(道徳)	小学部(道徳)	小学部(道徳)	小学部(道徳)	小学部(道徳)
道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎
道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展
道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用
道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究
道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現
道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造
道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展
道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用
道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究
道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現
道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造

【考察】

質問紙調査の結果から、知的障害のある子どもの実態を考慮し、抽象的な表現や内面的な情動を具体的な支援を用いて明確化すること、ロールプレイやペア活動等で体験的・実践的に学ぶことの有効性や方向性を考察できた。

本校は令和2年度より、教育課程全体を通して行われる道徳だけでなく、教育課程上に道徳を位置付けた。また、令和3年度より、「内容項目表」という共通のツールを活用し、小中高の系統立った授業実践を行っている。学校全体として知的障害のある子どもに対する道徳教育の理解を深めながら、個別の指導計画とリンクさせ、計画的な実践を行い、授業の質を向上させていくこと、実践を重ねながら「内容項目表」の内容自体を検証し、よりよいものにしていくことも肝要である。

(DOI Ippei, KOMI Satoko, WATANABE Ritu, MIYOSHI Kiku, KORENAGA kanako)

表1 調査から絞り込まれた内容項目

小学部1.2段階	小学部1.2段階	小学部1.2段階	小学部1.2段階	小学部1.2段階	小学部1.2段階	小学部1.2段階
道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎	道徳の基礎
道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展
道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用
道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究
道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現
道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造
道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展	道徳の発展
道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用	道徳の応用
道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究	道徳の探究
道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現	道徳の表現
道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造	道徳の創造